

困っている人を、
助けたい。これまでも、
これからも。



- 1 なぜ弁護士をめざした？**
困っている人を助ける仕事が
したくて弁護士になりました。
- 2 なぜ国政をめざす？**
誰もが「誇り」を持ち、自分らしく、
明るく生きていける国をめざす
ために政治を志しました。
- 3 なぜ野党なの？**
政権交代がない国では権力者に対するチェック
が働かず権力の私物化や不正、隠蔽、忖度が
はびこります。日本でも政権交代のある健全な
民主主義を実現するため野党を選びました。

柴田かつゆき 3つの原点

プロフィール

- 1968年千葉県松戸市生まれ
父は体育教師、母は薬剤師という
ごく普通の家庭で育ちました
- 3歳のとき、埼玉県三郷市に転居
両親が薬局を開業
- 開成高校・東京大学法学部卒業
- 大学卒業後、司法試験に合格
- 弁護士(～2022年 森・濱田松本
法律事務所パートナー)
元司法研修所教官(刑事弁護)

中学から大学まで
柔道に明け暮れました。
得意技は大内刈り

困っている人を助ける
仕事をしたかったので、
弁護士の道へ

- 家族** 妻(薬剤師)
- 好きなこと** 大東流合気武術(初伝初段)、柔道(3段)、
何かを読むこと(マンガ含む)
- 座右の銘** ふとん ふしん ふち
不食不驕不痴(みんなのため、明るく、頑張る)、
実力も運のうち

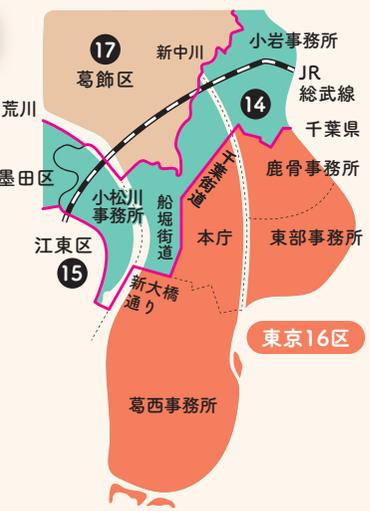
立憲民主編集部
東京都千代田区永田町1-11-1
三宅坂ビル7F
TEL:03-6811-2301
FAX:03-6811-2302

立憲民主党衆議院
東京16区総支部長
柴田かつゆき立憲民主党衆議院東京
16区総支部長の横顔と決意をご紹介します。

弁護士 柴田 かつゆき



選挙区割が変わりました
新東京16区



本庁管内
中央1丁目～3丁目、松江1丁目
～7丁目、大杉1丁目～5丁目、
西一之江1丁目～4丁目、春江町
4丁目、一之江1丁目～8丁目、
西瑞江4丁目、江戸川4丁目、
松本1丁目、松本2丁目
江戸川区葛西事務所管内
江戸川区東部事務所管内
江戸川区鹿骨事務所管内

なんでも相談
何かお困りのことなどありましたら、
柴田かつゆきになんでもご遠慮なく
ご相談ください。

なんでもトーク
政治・法律の話でも、日々の生活の話で
も、柴田かつゆきと語り合しましょう。どこ
でも伺います(ビデオ面談も可能)。



ご支援のお願い

- 1 ポスター掲示
- 2 友人・知人のご紹介
- 3 ご寄付
- 4 チラシの配布
- 5 街頭演説応援
- 6 事務所での軽作業
- 7 その他なんでも

事務所

〒134-0091
東京都江戸川区船堀1-4-10
第2乙女屋マンション604
TEL 050-8886-1651
FAX 050-3488-7290
Email office.kshibata@gmail.com
H P https://k-shibata.jp



事件の現場から、政治の現場へ。

「十分な社会保障と罪を犯した人の社会復帰支援があれば、半分以上の人は罪を犯さない」刑事事件の現場から学びました。公正であたたかい社会をめざし、政治の現場へ挑戦します。

柴田 勝之

弁護士・柴田かつゆきの報告

犯罪は社会保障で減らせると痛感

日本の刑事事件で無罪はほとんどありません。人気法廷ドラマのタイトル通り99.9%は有罪、その多くは自分で罪を認めている事件です。刑事事件の弁護をする中で罪を犯した理由を詳しく聞いていくうち、日本社会の問題点を認識しました。まず第一に、罪を犯した人には心の弱い人、心を病んだ人が多いことに気づきました。病気・事故・障害・失業で生活が苦しくなった、家族や友人と仲違いした、世の中の全てがいやになった、理由は様々に複雑に絡み合っているようですが、ちょっとした心の弱さや心の病が原因で犯罪に手を染めてしまうケースを目の当たりにしてきました。十分な社会保障と、罪を犯した人への社会復帰支援があれば、私が担当した人の半分以上は罪を犯さずに済んだはずというのが私の実感です。ほんのちょっとした手助けで犯罪を未然に防げたのではないかと。制度の谷間に落ちてもがいていたのではないかと。困っている人を助ける仕事がしたいと思って弁護士になり、ずっと刑事事件を担当してきましたが、その悔しい思いが政治を志す原動力になっています。

基本的人権を守り、育てる

そして第二に、日本では刑事手続の対象にされた人の人権が驚くほど軽視されていることを知りました。私が経験した事件に「名古屋刑務所事件」があります。もう20年前になります。刑務官に反抗的な態度をとった受刑者が、懲らしめ目的で腹部を革手錠で強く締めつけられて何人も死傷者がでました。結果、刑務官は有罪となり100年ぶりに監獄法が改正され、革手錠も廃止、刑務所改革が進みました。しかし昨年また名古屋刑務所で刑務官の暴行が明るみに出ました。刑事手続の対象者の人権は20年経っても軽視されたままと言わざるを得ません。刑事以外でも入管施設のスリランカ人女性死亡事件しかり、低い水準にある日本の人権意識の底上げが必要です。

令和5年5月27日(土)葛西区民会館で開かれた立憲民主党(岡田克也・柴田かつゆき)タウンミーティング在江戸川の講演の様子



柴田かつゆきさんに聞きました

「元気があれば何でもできる」～『誇り』を大切にする

故アントニオ猪木さんの「元気があれば何でもできる」に同感です。私が目指すのは、この国に生きるすべての人が元気でいられること。そうなればどんなに強く、しなやかな国になるでしょう。自分のつたない経験ですが、人の元気が最も失われるのは「存在価値がない」と自分自身で思うこと、つまり『誇り』を失うことだと考えています。だからこそ誰もが『誇り』を持てる国にしたいのです。

「公正であたたかい社会」～社会保障を大切にする

資本主義には弱肉強食、強い者がより強くなる収奪の仕組みがあります。その原理は古今東西変わりません。さらに民主主義と資本主義はセットであるという考え方が主流の中で、努力したら報われる、成長こそ善であると信じられています。しかしそれが正しいのでしょうか。努力しても報われないこともある。成長が止まることもある。そんな時に社会保障という助け船があるからこそ人間社会が成り立つのだと考えます。一人ひとりが尊厳を保ち、生きる喜びと誇りに満ちた世の中に変えるため、公正であたたかい社会保障制度の構築をめざします。

柴田かつゆきってどんな人？

私の政治への態度

二元論からの脱却

多様性を認める力

民主主義の原則は多数決ですが、100人いれば100の正解があることを認めるのが真の民主主義だと考えています。善と悪、敵と味方…。二元論は分かりやすい反面、思考停止と感情的になる危険性をはらんでいます。つねに賛否が求められる政治こそ、多数派の考えだけで政策を決めるのではなく、少数派の声も反映していくことが大切です。

無謬主義を排する

誰でも誤る時がある

どんなに優秀な人間や組織でも誤ることがある——。弁護士の仕事で痛感したことです。とくに行政府や司法府は法の執行者あるいは法の番人であるがゆえ、なかなか自らの誤りを認めることができません。認めれば自らの権威を傷つけることになるからです。自分は常に正しいという無謬主義を排し、誤りは正す柔軟な政策立案が必要です。

抽象化・単純化を慎む

印象に惑わされない

弁護活動中に、大体こういう事件だろうと抽象的に見立てたことと具体的な事実が違うのを何度も経験しました。最初の印象や過去の経験から類推できても、それが真実とは限りません。政治の場でも安易な抽象化・単純化は慎んで印象や推測では判断せず、具体的な事実や現場の声を積み上げて政策を決定していきます。